令和4年度　自　己　評　価　表

47　宇和島南中等教育学校

教育方針	「輝く瞳の君であれ」 一人一人の自己実現を目指して	重点目標	「変革と挑戦」（ Change & Challenge ）

領域	評価項目	具体的目標　（○数値目標）	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	教科指導の充実	分かる授業を展開し、基礎・基本を定着させ、学力の向上に努める。 ○学校教育評価票(生徒用)による評価 A:3.4以上　B:3.3　C:3.2　D:3.1　E3.0以下	A	○学校教育評価票(生徒用)による評価は3.4であった。	小テストや課題の充実により、基礎・基本の定着、応用力の更なる伸長を目指す。
		出席する、継続することの大切さを理解させる。 ○１か年皆勤率　60%以上 A:60%以上　B:59～55%　C:54～50% D:49～45%　E:45%未満	D	○１か年皆勤率(46.9%)(２月末現在)	登校し、授業に出席することの大切さを生徒に引き続き理解させる。
		ICT機器の活用を推進し、分かる授業を通して生徒の学習意欲の向上に努める。 ○南校ティーチャーズウィーク（相互授業参観〔年2回〕）の実施期間中にICT機器を活用した授業　60%以上	B	○南校ティーチャーズウィーク〔６月・11月〕期間中にICT機器を活用した授業の平均69%	引き続きICT機器に関しても、授業等での効果的な活用を目指し、教科の特性等も考慮しつつ、より実践的なものになるよう授業・教材の研究に努める。
	家庭学習の充実	目標に向かって自主的に学習する姿勢を育成する。 ○家庭学習時間 １・２年生　120分以上 A:120分以上　B:119～110分　C:109～100分 D:99～90分　E:90分未満 ３・４年生　160分以上 A:160分以上　B:159～150分　C:149～140分 D:139～130分　E:130分未満 ５・６年生　200分以上 A:200分以上　B:199～190分　C:189～180分 D:179～170分　E:170分未満	D	○家庭学習時間　（　）内は塾での学習時間を含んだ数値 １・２年生　108分　(125分) ３・４年生　106分　(130分) ５・６年生　154分　(186分)	各教科において、適切な課題を出すことにより、家庭学習の習慣を身に付けさせたい。さらに、前期生は、学力推移調査、後期生は模擬試験を活用して早めに進路目標を設定させ、目標に向かって学習できるよう促したい。
生徒指導	生活指導の充実	指導方針を明確にし、全教職員が指導にあたる組織づくりに努める。 家庭･地域及び関係機関等、外部と連携して指導する。 ○問題行動発生件数０を目指す。	C	指導方針に基づき、教職員が連携した指導ができている。 ○前期　３件　後期　１件の問題行動が発生	年度初めの生徒指導職員会をはじめ、学年会や職員会議及び職員朝礼などで、教職員間の情報交換をスムーズに行い、常に周知徹底を図り、今後も連携した指導を行うことができるように努める。
	部活動の充実	達成感が得られるように部活動の活性化及び能力向上につながる指導方法の工夫を図る。 ○県総体出場者　前期50人以上　後期140人以上 ○全国大会出場　体育・文化部含め４部以上	B	新型コロナウィルス感染症のため、活動制限の中で各部が感染対策を講じ最大限の活動を行うことができた。 ○県総体出場者　前期62人　後期138人 ○全国大会出場　水泳部　弓道部　日本文化（かるた） 東アジアユース　エアピストル日本代表 全国高校選抜大会　弓道女子個人　5位	今後も感染対策を徹底しながら、部活動の意義を考えさせ効果的な指導を考える。
進路指導	進学・就職指導の充実	進学希望者に対して、進路実現を図る。 ○国公立大学合格者　55人以上 A:55人以上　B:54～45人　C:44～35人 D:34～25人　E:25人未満 ○難関国公立大学と医学部医学科合格者　５人以上 A:５人以上　B:４人　C:３人 D:２人　E:１人以下	B	○国公立大学合格者　46名（3月10日現在） ○難関国立大学と医学部医学科合格者 4名 ○難関私立大学　33名	今年度、難関大学は数は多くなかったが、東京大学・一橋大学の合格者が出た。今後も、高い目標を持ち努力することの大切さを伝えていきたい。
		就職希望者に対して、進路実現を図る。 ○就職希望者に対する面接　２回	B	就職を希望した２名について、１名は公務員、１名は縁故で地元企業に就職が決定した。担任を中心に個別対応で指導を行った。	就職希望者は今後も少ないので、個別対応をしていきたい。
人権・同和教育	人権意識の高揚	差別や偏見のない社会を目指す生き方について共に学ぶ。 慈善活動の企画・参加を奨励する。 ○「人権だより」の発行　月１回	B	人権委員会を中心に、ウクライナとロシア両国並びに世界の平和を願って中庭でひまわりを栽培し、平和や人権に対して関心を高める活動を実施した。また採取した種を返礼とした募金活動を実施し、「愛媛県ウクライナ人道危機救援金」に募金することができた。また宇和島市内の子ども食堂のボランティアスタッフとして、後期生を中心に年間を通して参加することができた。	国家間並びに世界の平和を願う活動については、中庭のひまわりの栽培面積を広げ、関心が薄れないよう来年も引き続き実施したい。またボランティアスタッフも大勢が参加できているものの、参加者が女子生徒や一部の特定の生徒になっている状況もあるため、周知の在り方を工夫したい。

評価の段階　（　A:十分な成果があった　B:かなりの成果があった　C:一応の成果があった　D:あまり成果がなかった　E:成果がなかった　）

領域	評価項目	具体的目標　（○数値目標）	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
人権・同和教育	人権意識の高揚	いじめ･体罰･セクシュアルハラスメント等に対する意識を高め、気軽に相談できる体制をつくる。 校内外での研修を充実させ、全教職員が共通の意識をもっていじめ防止・発見対応に努める。 ○学校生活をよりよくするためのアンケートの実施　年２回 ○月末アンケートの実施（前期生）	C	教職員対象に「たんぽぽ読書会」の方による講演会を実施した。先生方の率直な悩みに寄り添った講演内容で、差別解消に向けて共通認識を持つことができた。また学校生活をよりよくするアンケートと月末アンケート（前期生）を実施したことで、学年を中心に早期に問題行動や悩みの解決に取り組むことができた。	複雑化するいじめ問題に対して、教職員研修並びに相談体制（生徒、教職員）の構築が必要である。月末アンケートだけではなく、毎学期対面によるカウンセリング的な面談や教育相談を実施したい。
		道徳･学級活動･ホームルーム活動を活用し、生徒の成長に応じた指導を行い、差別の解消に向けた実践力を養う。 地域と連携した活動に積極的に参加する。	C	学校評価アンケートの評価ポイントは昨年度より上昇しており、担任の先生方を中心に真摯に人権・同和教育に向き合い、生徒とともに学ぶ取組を実践している様子がうかがえるが、差別解消に向けた実践力や生徒の変容には課題が残る。	人権・同和教育学活、ホームルーム活動では、系統的に実施していく面と、時代に合った題材やテーマを新たに設定する面など、学年に応じた指導の在り方を構築したい。
健康・安全指導	心身の健康増進	倫理意識の高い職場づくりを推進するとともに、明るく意欲的に仕事ができる職場環境を整える。 家庭と連携を図り、健康診断の事後措置を徹底し、疾病の受診率向上を目指すとともに、感染症や熱中症予防に努める。 ○「保健だより」「食育だより」の発行・ホームページへの掲載 毎月１回	C	気軽に相談し合える職場環境の構築の不十分さを感じる事があった。 感染症対策や、生徒の日頃の健康管理、食育については目標を達成できている。	職場で気軽に相談し合える職場環境の更なる充実を図るとともに、一歩踏み込んだフォローを迅速に行えるよう、関係者同士の情報交換を密に行いたい。
		相談員等と教職員との連携を図り、生徒の変化に速やかに対応できる体制の強化に努め、生徒の相談しやすい環境を整える。	C	担任、学年団、保健室と連携し、生徒、保護者の相談を相談員等につなぐことができた。生徒が相談しやすい体制作りについては、さらに工夫が必要である。	月末アンケートが生徒の相談につながる仕組みを作りたい。相談体制の強化とともに、特別な支援を必要とする生徒に関わる教員が、共通理解のもと適切な支援を行えるよう、校内特別支援教育委員会を実施する。
	安全指導・点検の強化	非常変災や事件･事故、感染症などに対処できるよう役割分担を明確にし、準備･訓練等を充実させる。 地域の防災活動との連携を図る。 ○実践的な防災避難訓練等の実施年2回。緊急地震速報システムを利用した訓練1回、予告無し訓練1回。	A	計画通りに訓練を実施することができ、生徒の防災意識を高めることができた。	今年度と同様に訓練の実施や防災教育の充実を図っていきたい。
		交通ルールの遵守に努め、交通事故を防ぐ。特に、自転車による登下校時のマナーアップに努める。 ○交通事故発生件数０を目指す。	B	委員会活動、交通指導等から交通マナーアップを呼び掛けた。自転車の登下校について効果が薄い生徒がいた。 ○交通事故報告　2件	委員会活動、講習会、交通指導等から交通マナーアップを図る。また、巡視等も実施する。
		校内巡視を徹底し、危険箇所等のチェックを行い、迅速な対応を図る。 備品整備の充実等、生徒が安全快適な学校生活を送れるよう環境整備に努める。	B	毎学期の一斉点検の実施のほか、随時安全点検を行い危険個所の早期発見、早期対応に努めた。感染症防止、熱中症防止のための備品の充実が図れた。	安全点検の形骸化を防ぎ、引き続き危険個所の早期発見、迅速な対応に努め、生徒が安全快適な学校生活を送れるよう環境整備を進めたい。
図書・視聴覚・情報教育	読書指導の充実	生徒が本に親しみを感じ、読書習慣を身に付けられるように指導する。 ○書籍年間貸出冊数　一人年間6冊以上 A:6冊以上　B:5～4冊　C:3～2冊　D:1冊　E:0冊 ○読書冊数　一人年間17冊以上 A:17冊以上　B:16～14冊　C:13～10冊 D:9～6冊　E:6冊未満	A	○書籍年間貸出冊数　一人　8.2冊（前期11.5冊/後期5.1冊） ○読書冊数　一人22.3冊（前期29.8冊/後期15.0冊） （R５年３月10日現在）	登校後、スムーズに朝読書に切り替えられるように、学年、図書委員が中心となって呼びかけ等を行い、積極的に働きかける。 学級活動やHR活動においても、年間計画の中で図書室の利用を促し、読書案内のきっかけにしてもらうように努める。
	情報処理教育及び情報管理	ICT機器を効率よく用いた学習支援システムの研究や環境整備を進め、授業等で活用する機会を増やす。	C	ICT機器を活用した授業は確実に増加したが、生徒の学習に対する理解や意欲の向上には、まだつながっていない。	教員だけでなく、生徒も授業の中でICTを活用する場面を増やすなど、授業改善に取り組み、生徒のICT活用力の向上を図る。
		情報セキュリティ意識の高揚に努め、管理体制を明確にして個人情報等の管理を厳密に行う。	B	校務系を活用して重要ファイルを管理することで、情報漏洩の防止に努めた。情報セキュリティ研修も実施した。	生徒については、「情報」の授業等を活用し、更に情報セキュリティの意識高揚に努める。教職員については、引き続き重要ファイルの分類等を行い、一層のセキュリティ維持に努める。
業務改善	適切な勤務時間	働き方改革を推進する。行事や会議の縮減・簡素化、部活動休養日の徹底を図り、最低週1回は定時退勤を目指すなど、超過勤務削減に努める。	C	教職員間の連携・協力体制の明確化を進め、連絡業務の効率化や会議の縮減・簡素化を実施して超過勤務削減に努めた。職員朝礼時の紙上連絡、メール連絡網「マチコミ」による欠席連絡等、朝の時間確保に努めた。	教職員のやりがいや意欲を高めるとともに、「学校における働き方改革」の方策の一環として長時間勤務の削減など、業務の円滑化やワークライフバランスの向上に努める。
その他	特色ある学校教育の推進	学校独自の取組であるＵＧＩ事業を通し、グローバルな視点で地域課題を捉え、解決を図るグローカルリーダーを育成する。 国内・海外フィールドワークを実施する。地域活動やコンテストへの自発的参加生徒数を増やす。 ○課題研究活動への大学教授の招へい　延べ20人以上	B	オンラインを活用し、リモートによる５回の講演会を実施した。課題研究活動時の大学教授の招へいについては、本年度延べ35人でほぼ対面式で行うことができた。地域活性化につながる取組への自主的参加生徒人数が増加するとともに、一人一台端末を活用し、班でその取組をポスターにまとめるなど生徒の端末運用能力を高めた。本年度はオーストラリアでのオンライン語学研修を８月に、また、実際に現地での短期研修を３月に実施し、生徒のグローバルな視点構築に寄与した。	実際のコミュニケーションが図れる対外的な活動を増やし、参加を促していくことで、生徒の考え方や生き方に新たな視点が加わる機会を充実させる。
	学校経営･運営に対する理解と評価	保護者と連携し、魅力ある学校づくりを目指して行事の工夫・改善を行う。 ○授業公開日　参観保護者　50%以上 ○保護者との交流行事　年５回以上	C	○授業公開参観保護者 ７月（１年生)53.8%、10月（全学年)25.3%、２月（２年生)70.8% 全体平均35.6%(昨年度34%) ○交流行事 ５回(PTA総会(書面開催)、給食試食会、体育祭、文化部発表会、修了式)	後期生の参観保護者が少ない傾向なので、後期生対象のイベントを行うなどの工夫を検討する。 交流行事については、教職員の働き方改革や学校再編に向けて精選し、一つ一つを充実させていく。
		○ホームページの更新　原則　毎日	C	年間を通じて担当を決め、開校日には、なるべく更新できるように努めた。	原則毎日更新することを目標とし、行事予定や部活動の大会結果なども、できるだけ早く情報の発信ができるよう努める。

評価の段階　（　A:十分な成果があった　B:かなりの成果があった　C:一応の成果があった　D:あまり成果がなかった　E:成果がなかった　）